

◆『障害学生修学支援メニュー』を公表

大学、短大、高専での障害学生受け入れに必要となる支援策の情報を紹介

独立行政法人日本学生支援機構（以下JASSO）は、平成一八年九月四日に全国の大学・短期大学・高等専門学校（以下大学等）を対象とした『障害学生修学支援メニュー』を公表しました。

■必要となる支援内容を障害種別、レベル別、対応場面に別一覧で見られる

『障害学生修学支援メニュー』^{（＊）}は、大きく分けて「（一）サービス（ソフト）」「（二）建物・設備・備品（ハード）」「（三）体制」の三つの「一覧ページ」で構成されており、複雑で多岐に渡る支援内容を、一覧形式で提示しています。また、その内容は「障害種別」、「レベル別」、「対応場面別」に分かれており、大学等は、在籍する障害学生の個別の状況や教育理念などに応じて、様々な角度から支援策を検討することが可能です。

■個々の支援内容の詳細な説明が見られる

さらに、『障害学生修学支援メニュー』の「（一）サービス（ソフト）」については、それぞれの支援策について、より具体的な情報を「詳細ページ」において説明しています。各支援内容の概要や体制、必要な設備・備品、経費などの詳細な情報を見ることができるので、大学等は、より具体的に支援

体制を検討することができます。『障害学生修学支援メニュー』は、WEBと冊子（紙媒体）の両方でご提供しています。

■『はじめて障害学生を受け入れるにあたって』『障害学生修学支援のためのFAQ』も公表

JASSOは『障害学生修学支援メニュー』とあわせて、『はじめて障害学生を受け入れるにあたって』『障害学生修学支援のためのFAQ』を公表しました。『はじめて障害学生を受け入れるにあたって』は、障害学生修学支援業務に初めて取り組む人のためのマニュアルで、筑波技術大学教授の石田久之先生（JASSO客員研究員）にご協力いただき作成しております。入学相談、授業保障など、基本的な支援体制や方策について、わかりやすく解説しているのが特長です。また、『障害学生修学支援のためのFAQ』は障害学生修学支援業務に関する基本的な疑問にQ&A形式でお答えします。

『はじめて障害学生を受け入れるにあたって』はWEBと冊子（紙媒体）で、『障害学生修学支援のためのFAQ』はWEBでご提供しています。

JASSOは『障害学生修学支援メニュー』『はじめて障害学生を受け入れるにあたって』『障害学生修学支援のためのFAQ』を通じて、大学等における障害学生修学支援情報を提供し、高等教育の機会均等、ユニバーサル・アクセスの実現を目指したいと考えています。

(*1)メニューの各支援内容はあくまで障害学生修学支援の参考情報です。メニューの各支援内容の優先度や重要性は、大学等の規模や支援を希望する障害学生在籍数等により異なる場合があります。

必要となる支援内容は、障害の程度や個人の状況によって変わることがあります。そのため、それぞれの支援内容については、当該学生との調整が必要となります。今後、関係各位のご意見を頂戴し、よりよいものに改善したいと考えております。(最新情報はWEB版で随時ご提供いたします。)

【本件に関するお問い合わせ先】

独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部 特別支援課

小越 吉田

○電話：〇四五―九二四―〇三六二

○メール：tokubetsushien@jasso.go.jp

○URL：http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/

◆平成一七年度私費外国人留学生生活実態調査概要

現在、我が国で学んでいる留学生数は、平成一七年五月現在、二万二八二二人であり、そのうち、私費外国人留学生数は、一万二八八人(九〇・三%)となっている(日本学生支援機構調べ)。本機構では、平成一七年一月に、我が国の大学(短期大学を含む)、大学院及び専修学校(専門課程)に在籍する私費外国人留学生(五五〇〇人)を対象に生活実態調査を実施した。

〈調査の目的と方法〉

一、調査目的 この調査は、我が国で学ぶ私費外国人留学生の標準的な生活の状況を把握し、経済的な実状等を明らかにし、独立行政法人日本学生支援機構が実施する外国人留学生に対する各種の支援事業の改善、充実を図るための基礎資料を得ることを目的として行った。

二、調査対象 我が国の大学(短期大学を含む)、大学院及び専修学校(専門課程)(以下、「大学等」という。)に在籍する私費外国人留学生で、我が国の出入国管理及び難民認定法の別表第一に定める「留学」の在留資格を有する者(国費外国人留学生制度実施要項に定める国費外国人留学生及び外国政府が派遣する政府派遣留学生を除く)を対象とした。

三、調査方法 全国の国公私立大学等の協力を得て、協力校に在籍する私費外国人留学生の中から無作為抽出を行い、所定の調査票(無記名)を送付し、回収した。

なお、協力校の選定にあたっては、国公私立大学等別の留学生在籍率及び地域分布等を考慮した。

四、調査対象人数 五五〇〇人(国立大学六一校九六七人、公立大学二二校二二九人、私立大学八九校二九六一人、短期大学三九校一九三人、専修学校六〇校二二五〇人)

五、調査実施時期 平成一七年一月

〈調査の内容〉①日本留学前の状況、②在日・在学年数及び入学

学に進学を希望する者。・海外の大学を卒業する能力を有することについて在学学校長の推薦がある者。

詳しくは <http://www.jasso.go.jp/saiyou/ryugaku17.html>

◆国際大学交流セミナー「東南アジアにおける獣医学教育の現状と現場―パートナーとしての相互理解向上の探求―」

主 催：酪農学園大学

共 催：独立行政法人日本学生支援機構

開催日時：平成一八年六月二十五日(日)～七月八日(土)

酪農学園大学では、学術交流協定を締結している東フィリピン大学の獣医学部から学生八名引率教員二名を招へいし、国際大学交流セミナー「東南アジアにおける獣医学教育の現状と現場―パートナーとしての相互理解向上の探求―」を開催した。

今回のセミナーは東フィリピン大学の学生と日本側学生の対一の交流体験がベースで、期間中、東フィリピン大学の学生は日本側学生のアパートにホームステイをし、同じ講義を受講し、実習・実験などを体験、獣医学部教員等による多くの特別講義等を受講した。(写真は九月号に掲載)

◆外国人学生のための進学説明会

我が国の日本語教育機関等に在籍し、大学(大学院を含む)・

〈対象者〉・勉強意欲がありながら、経済的理由により進学に

困難がある者。・学位取得を目的として積極的に海外の大

◆第二種奨学金(海外)について
近年の国際化に伴い、積極的に海外の大学・大学院で学ぶという学生が増える状況を踏まえ、国際的に活躍する人材の育成及び経済的支援を図る観点から創設された。
大学・大学院進学予定者を対象として、進学をする前にかじめ申込み「予約制度」のため、申込書類の請求・提出先は日本国内の在学学校または出身校。
○大学対象の奨学金について
〈募集受付〉「予約制度」のため、留学する年度の前年度六月下旬～一月上旬の間に受付。

〈貸与月額〉三万円・五万円・八万円・一〇万円の選択制。
〈申込資格〉・留学する年度の前年度に、日本国内の高等学校、専修学校高等課程を卒業見込みの者。・募集受付時において、日本国内の高等学校、専修学校高等課程を卒業後二年以内の者。

短期大学及び専修学校(専門課程)以下「大学等」という。)への進学を目指している外国人就学生等が、進学希望に合った大学等を選択するため、我が国の大学等の参加を得て、個々の大学等の教育、研究上の特色等に関する最新の確かな情報の提供を行う。

主 催…独立行政法人日本学生支援機構

〈東京会場〉

平成一八年七月二日(日) 一〇:〇〇～一六:〇〇

サンシャインシティ文化会館展示ホールD

参加大学・機関数 一五九大学、二機関

入場者総数 三〇三九名

〈大阪会場〉

平成一八年七月一六日(日) 一〇:〇〇～一六:〇〇

グランキューブ大阪―大阪国際会議場三階イベントホール

参加大学・機関数 一〇七大学、三機関

入場者総数 一二三四名

◆東京二二大学フェアin広島

開催日…平成一八年七月一五日(土)

場 所…広島国際会議場(B2F 国際会議ホールヒマワリ)

来場者数…七三七人(主催者発表)

相談者数…一〇人

独立行政法人日本学生支援機構のブースでは、来場者から熱心な相談を受けた。主な相談内容は、奨学金の種類と申込条件、申込時期・申込方法(必要書類等)、予約採用の申込みと候補者決定後の手続き、貸与利率だった。大学等のパンフレットとともに置かれた「奨学金ガイド」「機関保証リーフレット」各一〇〇部は開場までに配布を終了した。(中国支那) (写真は八月号に掲載)

◆海岸・海浜及び会館周辺の清掃ボランティア交流会

主催団体…大分県別府市

開催日…平成一八年七月一六日(日)

場 所…①「リフレッシュ瀬戸内」海岸・海浜清掃(会館隣接のスパビーチ)、②大分国際交流会館周辺、別府市立北小学校周辺及び国道一〇号線沿道

参加者…二六名(大分国際交流会館館生二名(留学生一六名、日本人学生五名)、独立行政法人日本学生支援機構職員三名、財団法人日本国際教育支援協会職員一名)

大分国際交流会館では、別府市主催の「リフレッシュ瀬戸内」海岸・海浜清掃に参加し、会館隣接のスパビーチを別府市民約一〇〇〇人と一緒に清掃を行った。その後、大分国際交流会館に再集合し、会館周辺、別府市立北小学校周辺及び国道一〇号線沿道の清掃を行った。清掃終了後の交流会では、

今回の反省等を交え、親睦を深めるため、バーベキューの形式で昼食会を行った。

なお、今回は市の清掃課と事前相談し、清掃用具の借用や作業後のゴミ収集の協力など理解を得られ、大変意義深い会館の行事として実施することができた。(大分事務所) (写真は八月号に掲載)

◆国際シンポジウム「『留学』が世界にもたらすもの―関係性、アイデンティティ、共生―」

国際研究交流大学村開村五周年記念事業

主 催…独立行政法人日本学生支援機構、国士舘大学

助 成…(財)中島記念国際交流財団助成事業

開催日時…平成一八年七月一七日(月) 一三:〇〇～一八:〇〇

会 場…東京国際交流館 プラザ平成

参加者数…二〇一名

プログラム…

・基調講演Ⅰ「留学―新しい視点を求めて」イシエンゲル・

ボルジュロワ キルギス共和国副首相、キルギス国立民族

大学前学長

・基調講演Ⅱ「わたしの留学体験とその後」村井吉敬 上智

大学外国語学部教授

・パネル・ディスカッション「『留学』が世界にもたらすもの―関係性、アイデンティティ、共生―」
パネリスト…黄智慧台湾中央研究院民族學研究所研究員・台湾大兼任講師、宮地尚子一橋大学大学院社会学研究科教授、張電傑韓国慶南大学教育学部副教授、邢志强国士舘大学国際交流センター副センター長・二二世紀アジア学部教授
モデレーター…土佐昌樹国士舘大学アジア・日本研究センター副センター長・二二世紀アジア学部教授 (写真は「大学と学生」九月号に掲載)

◆国際大学交流セミナー 慶北―浜松学生交流セミナー「お互いの長所を学び、連携を深めよう」

主 催…浜松医科大学

共 催…独立行政法人日本学生支援機構

開催日時…平成一八年七月二四日(月)～八月三日(木)

浜松医科大学では、学術交流協定締結校である慶北大学校医科大学(韓国・大邱市)から学生一〇名、教員三名、計一三名を招へいし、国際大学交流セミナー「慶北―浜松学生交流セミナー」『お互いの長所を学び、連携を深めよう』を開催した。

慶北―浜医合同講義、PBL実習、医学倫理、COEプログラム担当教員による講義等が行われ、講義のほかにはホームステイ、工場見学等も行われた。